

本会記事

2025年度秋季大会報告

2025年度秋季大会は、10月28日（火）～30日（木）の3日間、九州大学医学部百年講堂において行われました。今回の講演発表件数は、受賞記念講演14件、特別講演4件、招待講演13件、一般講演138件の合計170件でした。2025年度春季大会の115件から講演数がぐっと伸び、参加者数も3日間で約390名と多くの方にご参加頂きました。企業展示は、九州開催ということもあり、地元に縁のある企業を中心に10社と多くの出展を頂きました。特に今回は、粉末冶金関連企業に加え、ロボットハンド関連企業という新たな分野からの出展もありました。当会では、会員・非会員にかかわらず、展示出展が可能ですので、ぜひ出展をご検討ください。

九州での開催は、今回で4回目になりますが、百年講堂での開催は平成20年度秋季大会（2008年）以降17年ぶりです。2020年秋にも同会場での開催を予定していましたが、新型コロナウイルス感染症流行の影響を受け、当会初のオンライン開催となりました。オンライン開催は移動の負担がなく参加しやすいといった利便性がある一方で、参加者同士の会話が生まれにくい面があります。対面開催では、会話をきっかけに新たなアイデアや課題に対する解決が生まれる場ができる、学会の盛り上がりにも繋がっていると思いますので、今後も対面開催の場を大切にしていきたいと考えます。

今回の講演大会では、8つの講演特集と一般講演の発表があり、大会初日から会場は活気で溢れました。講演特集「硬質（工具）材料に関する新たな展開」では、最高聴講者数90名と今大会最多であり、日本のモノづくりを支える硬質材料に対する関心の高さを伺うことが出来ました。山本剛久先生（名古屋大学）の特別講演「電子顕微鏡法を用いたWC-Co系超硬合金の微細組織観察」をはじめ、組織に対する解析例や評価方法について講演がありました。その他にも講演特集「粉末積層3D造形に関わる材料および技術の最先端」では招待・特別講演はありませんでしたが、学生の発表も多く、最大74名と多くの聴講がありました。各会場において活発な議論が行われ、各発表内容に関する理解が深められていたと思います。

大会初日の28日（火）に、博多の中心へ場所を移し、「es Rooftop Garden BAGUS NAKASU」で懇親会を行いました。品川一成実行委員長の開会の辞に始まり、続いて尾崎由紀子会長のご挨拶がありました。お話の中で韓国KPMIとの交流に関する覚書を交わし、直前に済州島で開催された第1回JSPM-KPMI Symposiumの報告を頂きました。ご挨拶に続き、元会長で九州大学名誉教授の三浦秀士先生に乾杯のご発声を頂き、懇親会がスタートしました。実行委員の方のご紹介で決定した会場でしたが、参加者の方々からは「こんなおしゃれな場所で懇親会をするの？」と驚きの声も頂きました。ビル最上階10階のテラス席から夜景をみながらの会話はいつも増して華やかでした。景色が心もオーブンにさせたのでしょうか。研究や仕事の話だけでなく、プライベートな話でも盛り上がっていたようです。約120名の方にご参加を頂き、盛会のうちに閉会しました。

大会2日目の29日（水）には、若手フォーラム企画委員会主催の若手交流会を開催し、学生や若手研究者を中心に23名の参加がありました。テーマを設けず研究や就職についての様々な話題が自由に交わされていました。学生、社会人を問わず気軽に交流頂けたと思います。一方で、着席形式のため、多くの方とは話しつぶつとした意見もありました。2026年度春季大会でも交流会の開催を予定しております。もっと自由な交流が可能となる開催形式を検討し、若手コミュニティの活性化に繋がる時間となるよう努めて参ります。

2026年度春季大会は、5月26日（火）～28日（木）の3日間、大阪大学コンベンションセンターにて開催予定です。2026年度春季大会より、従来の講演発表分野の選択方法が変わります。来年度より新しい分科会組織をスタートするのに併せて、これまでの講演特集中心で構成されていたプログラムが、一般講演を中心とした構成に変わります。また、今後新たに協会が取り上げるべきテーマやホットな話題等を分科会の枠を超えて議論頂くSpecial Sessionを設けます。招待講演を含めて新たな切り口や提案ができる場にしていきたいと考えます。詳しくは本号掲載の2026年度春季大会講演募集ならびにWEBサイト（12月15日（月）オープン予定）より内容をご確認ください。システムでの講演申込は、来年2026年1月7日（水）より開始予定です。次回大会も多くの方のご発表、ご参加をお待ちしております。

（小川 千賀子）

